

来週の市場とレート予想

上田八木短資株式会社

	3/27(月)	3/28(火)	3/29(水)	3/30(木)	3/31(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 300	ト ン	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他	+ 19,400	+ 5,000	△ 3,000	+ 10,000	+ 9,000
資金需給	+ 19,700	+ 5,000	△ 3,000	余 10,000	余 8,000
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3M) 年度末諸払い			年度末諸払い	年度末諸払い
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,300 CP等買入 △ 1,300 国債補完供給 + 3,300				
オペスタート	共通担保(全店) + 3,900 国債買入 + 4,100 国債売現先 △ 10,000		社債買入 + 1,000		
(日本)	金融政策決定会合における 主な意見(3月15、16日分)				CPI(全国2月、東京都区部3月) 鉱工業生産指数(2月)
(海外)	米 シカゴ連銀総裁、講演 米 ダラス連銀総裁、講演 独 Ifo景況感指数(3月)	米 消費者信頼感指数(3月) 米 ダラス連銀総裁、講演	独 シカゴ連銀総裁、 フランクフルトで講演 米 中古住宅販売成約指数(2月)	米 10-12月GDP(確定値) 米 新規失業保険申請件数 (25日終了週) 米 ダラス連銀総裁、講演 欧 ユーロ圏景況感指数(3月)	米 シカゴ製造業景況感指数(3月) 米 ミシガン大学消費者 マインド指数(3月、確定値) 欧 ユーロ圏CPI(3月、速報値)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.03 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.01 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.01 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.01 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、国債の大量償還や特別交付金等の財政要因を主因に先週末対比5兆5,800億円増加の337兆8,000億円から始まった。その後も国債・短借買入オペ等の要因で増加し、週末には339兆2,900億円となった。無担保コールON物は先週の新積み期入り後の堅調な地合を継続した。また、一部市場参加者の試し取りによる0.001%での出合いが散見されたこともあり、同加重平均金利は△0.042%~△0.037%のレンジで推移した。ターム物では、月内エンドとなる1W物で△0.025~△0.01%、3月末超えとなる2W物で0%近傍での取引が見られた。24日、日本銀行はレポ市場の国債需給を緩和するための一時的な措置として、国債売現先オペ(期間3月27日~4月3日、オフ額1兆円)を約8年4か月ぶり(2008年11月以来)に実施した。結果は、按分レート△0.110%、按分比率92.3%、応札倍率2.06倍となった。来週の予定は、国内では31日にCPI(全国2月、東京都区部3月)と2月の鉱工業生産指数があり、海外では30日に10~12月の米GDP(確定値)、31日に3月のユーロ圏CPI(速報値)がある。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.400 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約6,700億円で、週間償還額の約9,200億円(金融機関・ABC除外)を下回った。新発物の発行レートについては、期内物は0.001%割れでほぼ横ばい圏内での出合い、期越物は先週よりも更に強いビッドが散見された。来週の償還額は、期末日の大型償還(約28,600億円)があるため、約3兆3,600億円となっている。28日に、CP等買入れオペ(6,000億円程度)のオフ額が予定されている。昨年のオペでは、足切レートは▲0.598%、按分レートは▲0.428%であった。

<TDB>

23日に国庫短期証券3M第672回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.3166%(前回債△0.3039%)、平均落札レートは△0.3398%(同△0.3271%)と前回債と比べて利回りは小幅低下した。セカンダリーは3Mで△0.31%近辺の地合となっている。6M、1Yは目立った出合いは見られず。来週は国庫短期証券の入札は予定されていない。

<レポ>

足許GCは週初△0.07%台の出合いから始まり、週央まで同レベルで推移した。短国3Mの発行日となる27日受渡しでは、△0.05%台までレートが上昇。週末には2008年以来となる国債売現先オペがオフ額され、△0.02%台までレートが急上昇した。SC取引では、週を通して5年130回債の引合いが多く、△0.60%台の出合いが続いた。週末は足許GCレートの上昇を受け、一般的な銘柄で△0.05%台の取引が見られた。他2年370・373・374回債、5年126・128・129・131回債、10年333・334・344・345回債、20年158・159・160回債、30年52・53・54回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。